



Newsletter

No.73

2017年6月10日

発行 レイバーネット日本

〒173-0036 東京都板橋区向原 2-22-17-108

http://www.labornetjp.org

labor-staff@labornetjp.org

電話 03-3530-8588 FAX 03-3530-8578

映画から浮かび上がる危険なニッポン！ ～レイバー映画祭で元気もらおう～

映画から浮かび上がる危険なニッポン！でも、声を上げるひとりに希望が見える！

レイバー映画祭

2017 7.22(土)
10:00～16:30 (開演9:30)
学生無料

アスベスト 福島県のさらば原発
私たちのフィールドスタディ 沖縄・済州島
流言蜚語の時代 関東大震災朝鮮人虐殺の現場を歩いて
原発の町を追われて3 双葉町・ある牛飼いの記録
私たちは共謀する 『テロ等準備罪』法案とのたたかい

私たちは共謀する 『テロ等準備罪』法案とのたたかい
コンビニの秘密 (仮)
中村さん
トゥージェン! 韓国サンケン労組は行く

一般当日 1700円のところ
学生・若者 1500円
学生・若者 1000円
学生・若者 500円

主催・協賛社・予約: レイバーネット日本
TEL: 03-3530-8588 FAX: 03-3530-8578
予約・予約: http://labornetjp.org/midatum
主催・協賛社・予約: http://www.labornetjp.org

<レイバー映画祭 2017>

7月22日(土) 10.00～16.30 田町交通ビル6階ホール

参加費 一般当日1700円 予約1500円

主催・問合せ・予約 レイバーネット日本

*詳細はチラシを参照してください。

<プログラム>

10.00 「アスベスト～震災後のさらなる恐怖」

「私たちのフィールドスタディ～沖縄・済州島・台湾」

「流言蜚語の時代～関東大震災朝鮮人虐殺の現場を歩いて」

11.10 「原発の町を追われて3～双葉町・ある牛飼いの記録」

11.40 「私たちは共謀する～『テロ等準備罪』法案とのたたかい」

12.45 「標的の島～風(かじ)かたか」

14.55 「コンビニの秘密(仮)」

「中村さん」

「トゥージェン! 韓国サンケン労組は行く」

16.30 終了

「レイバー映画祭 2017」を、7月22日(土) 東京・田町交通ビル6Fホールで開催します。ことしで11回目を迎えた「レイバー映画祭」は、社会を考え社会を変える「映画ムーブメント」としてすっかり定着しています。ことしも充実したラインナップが揃いました。

戦争できる国にひたはしる日本。しかしその本当の姿を大手メディアからは、知ることができません。三上智恵監督のドキュメンタリー映画『標的の島～風(かじ)かたか』は、沖縄本島、宮古島、石垣島で進む米軍と自衛隊の軍事増強・戦争準備の状況を真正面から描いた作品です。基地反対をたたかう人たちの思い、そして沖縄の非戦の文化が伝わってきます。

今年の映画祭の特徴は、学生・若者作品が3本も揃ったことです。若者のなかに映像を使って社会問題に取り組む動きがはっきり出てきました。午前の上映ですが、ぜひ応援視聴よろしくお祈いします。

また、会員の制作者を中心に、いまの日本の現実を捉えたホットな5作品が上映されます。「原発の町を追われて3～双葉町・ある牛飼いの記録」「私たちは共謀する～『テロ等準備罪』法案とのたた

かい」「コンビニの秘密(仮)」「中村さん」「トゥージェン! 韓国サンケン労組は行く」です。すべて初公開・新作で、6月現在「制作・編集中」のものばかり。映画祭での初披露、一挙上映が楽しみです。さあ、ことしも「レイバー映画祭」で元気をもらいましょう。

<作品紹介>

●「標的の島～風(かじ)かたか」

監督：三上智恵 2017年/119分

この映画をみて、時代の様変わりにあざんとした。これまで『標的の村』や『戦場ぬ止み』で、三上監督は辺野古や高江の米軍の基地づくりとそれに抵抗する人々に焦点をあててきた。今度は、宮古島や石垣島などで陸上自衛隊の配備とミサイル建設計画にも光をあてた。「戦争法」が着々と形となっている。安倍の“戦争ごっこ”がいよいよ本物となっていると思知らされた。映画の圧巻は高江の攻防だ。1000人の機動隊が押しよせてくるさまは黒澤明の『七人の侍』を彷彿させる。しかし、ここには暴力には暴力で、のたたかいはない。機動隊

<2ページへ続く>

「レイバー映画祭 2017」カンパのお願い

今年のレイバー映画祭もより多くの学生・若者に参加してほしいという願いから、「学生・20歳以下参加費無料」で行います。また全体の入場料も安く設定しています。これで黒字にするには300人以上の集客が必要ですが、そう簡単なことではありません。そこで今年も「映画祭カンパ」を呼び

かけさせていただきます。金額の多寡を問わず、ぜひお寄せいただければ幸いです。レイバーネット本体の財政も逼迫しており、この機会に皆様のご支援を切にお願いする次第です。なお、送金はニュースレターに同封した振替用紙をご利用ください。(事務局)

<1ページ上段より続き>

員が車の上にもまで襲いかかってダンゴ状になったとき、若い女性の首にロープが絡まった。その一瞬、リーダーの山城博治は敗北宣言する。この山城の勇断に驚かされる。そのあとかれはひざまずいて号泣するのだ。そこにわたしは、敗れても敗れてもたたかう非暴力精神のなんたるかをみた。(木下昌明)

*「風かたか」とは風よけ、防波堤のこと。映画は2017年春、劇場公開され大反響を呼んだ。

●「アスベスト～震災後のさらなる恐怖」

制作：武蔵大学永田ゼミ 2017年/12分

福島県浪江町、ガレキに残るアスベストの調査シーンから映画は始まる。阪神・淡路大震災でも被害は大きかった。吸っただけで20～50年後に肺がん、悪性中皮腫を引き起こすアスベストの恐ろしさを訴える。★新作★

●「私たちのフィールドスタディ～沖縄・済州島・台湾」 制作：鬼塚愛子（恵泉女学園大学卒業生）2017年/24分

沖縄、済州島、台湾。それぞれ東アジアの観光地として人気を博してきたこの3つの島々には、悲しい歴史がある。この記録は、東京の学生たちが島の隠された本当の姿を知るために旅した11日間の物語である。★初公開★



●「流言蜚語の時代～関東大震災朝鮮人虐殺の現場を歩いて」 制作：沖縄と東アジアの平和をつくる会 2017年/20分

東京で起きた関東大震災の朝鮮人虐殺の歴史とその現場を描いたドキュメンタリー。「東京という街で何が起きたのか」。歴史の現場を訪れた取材者はそこで何を思い、気づくのか。歴史から流言蜚語の現代を問う。★初公開★

●「原発の町を追われて3～双葉町・ある牛飼いの記録」 制作：堀切さとみ 2017年/25分

福島第一原発が立地する町から全国に避難した双葉町民。6年たった今も、誰一人ふるさとに帰ることはできない。避難先で自立して生きようとしても、差別は容赦なく降り注ぐ。それでも新たな一歩を踏み出す、ひとりの牛飼い、鶴沼久江さんの姿を追った。★初公開★

●「私たちは共謀する～『テロ等準備罪』法案とのたたかい」 制作：湯本雅典 2017年/20分

連日続く国会前での「共謀罪」反対行動。この闘いは安保法制反対の時と同様、市民参加型の運動として継続している。運動が佳境を迎える中、つ



(c)「標的の島 風かたか」製作委員会

いに創価学会員が国会前の集会で反対スピーチのマイクを握った。カメラは創価学会員など宗教者や個人参加の市民を追い、この運動の可能性と課題を追求した。★初公開★

●「コンビニの秘密 (仮)」 制作：PARC 監督：土屋トカチ 2017年/36分(予定)

日本国内で約54,500店が営業中のコンビニエンス・ストア、通称コンビニ。年中無休・24時間営業を行い、食料品や日用雑貨の販売、公共料金の支払等、多彩なサービスを提供している。2016年、業界の総売上高は10兆5700億円を超えた。その一方で、長時間労働と執拗なノルマを強いられる、フランチャイズ加盟店オーナーやアルバイトの声の悲痛な声も聞こえてくる。便利で快適な生活を支える、コンビニの秘密を探る。★新作★

●「中村さん」 制作：津田修一 2017年/20分

仕事無くて食えなくなって介護の資格を取りに行った。そこで出会ったのが中村さんだった。受講生仲間のおばちゃんだ。中村さんの毎日はハードだった。既に介護施設で働いていて、授業のあとは夜勤。ある日、中村さんから「うちで働かないか。施設長候補を探している」と誘われた。施設長つ



てそんな簡単になれるの?…。★初公開★

●「トゥジェン! 韓国サンケン労組は行く」

制作：ビデオプレス 2017年/25分

韓国馬山の自由貿易地域に工場進出した日本企業「サンケン電気」。さんざん儲けたあとは現地の労働者を整理解雇して逃げ切りを計った。しかしそんな「渡り鳥」は許さない。「韓国サンケン労組」は剃髪姿のキムウニョンさんを先頭に、2016年10月から日本遠征闘争を開始した。半年をこえた熱い闘いのドキュメンタリー。トゥジェン! (闘争)

6月から書評「本の発見」を週刊化

～執筆スタッフも増強

これまで、大西赤人（1日）・志真秀弘（15日）で、ウェブサイトに掲載してきた＜本の発見＞を、6月から週刊にします。執筆陣に、渡辺照子（派遣労働者）、菊池恵介（大学教員）、佐々木有美（ビデオプレス）の3人が加わります。担当は以下の通りです。第1木曜＝大西赤人・第2木曜＝渡辺照子・第3木曜＝志真秀弘・第4木曜＝菊池恵介／佐々木有美（隔月）・第5木曜は休み

＜週刊 本の発見＞は、これまでの＜本の発見＞を引き継いで、話題の本から今読まれるべき古典まで、また、国内外を問わず、文学・政治・経済・児童書・画集・自然科学に至るまで、ジャンルを問わず取り上げていきます。目指すのは、ウェブサイトでもっとも注目されるブックレビューのコーナーです。いや、この際、活字メディアも含めてもっとも読まれる書評を目標にします。選択の基準は、レイバーネットでつながっている国内外の多くの人たちの役に立つことです。

今の変化の激しい時代を考え、その激動の中で、未来を切り開く一人一人の豊かな考えを創造するために、みなさんでこのコーナーを育ててください。取り上げてほしい本をお寄せください。おおいに歓迎します。近く、お互いに顔をあわせて討論できるブッククラブを発足させる予定です。

（志真秀弘）



週刊 本の発見

＜新執筆陣の抱負……渡辺照子＞

素晴らしい執筆陣の方々がおられる中、私にも執筆の機会を与えて下さりましてありがとうございます。喜んでお引き受けします。肩書きは「派遣労働者」とさせて下さい。「一介の労働者」「市井の人間」という意図を表したいと思います。その上で、同じ労働者が、割と気軽に読めて社会の問題への見識が深まる、知的好奇心が満たせる、みたいな本を紹介させていただけたらと思います。ですので、研究者が読むような専門的で高額な書籍は選ばないようにします。労働問題のものを中心に、社会科学系、ノンフィクション、ルポルタージュ、小説、エッセイ等、ジャンルが偏らないようにしようと思います。レイバーネットの皆さんと、読書の楽しさを分かち合えたら、こんなうれしいことはありません。今後とも何卒よろしくお願い致します。

＜これまで取り上げた本＞ 第1回『プリズン・ブック・クラブ』、第2回『AIの遺電子』、第3回『俳句世がたり』、第4回『日本唱歌集』、第5回『岩場の上から』、第6回『夜の谷を行く』、第7回『子どもたちの階級闘争』、第8回『バラの中の死』『血縁』

レイバーネット TV、意欲的テーマつづく

レイバーネットTV、5月は「死刑制度を考える～『国が人を殺す』ということ」「民営化10年～ブラック大企業か？ 日本郵政の実態」の二つの番組を放送しました。死刑問題では、ゲストの太田昌国さん、坂上香さんが死刑の根源に迫る話をしてくれて、死刑問題を考える重要な番組となりました。

また日本郵政の特集は、郵政ユニオンメンバーが3人登場し、現場の実態を語りました。企画のいいだしっぺの吉原真次さんは、職場でいじめに遭い、適応障害を発症し自殺寸前まで追いつめられた思い、そしてユニオンに救われたことを赤裸々に語りました。文字通り「希望はユニオン！」の放送になりました。

今後のTVの予定。6月14日（水）は「民営化30年検証～破綻したJR北海道とアブナイJR東日本」（ゲスト＝黒鉄好さん、唐澤武臣さん、長南進一さん）で、映像や資料を駆使してマスコミが伝えないJRのウラの実態に迫ります。黒鉄さんは北海道からスタジオにやってきます。

また6月28日（水）は、「あなたは7・7を知っ



113号「日本郵政特集」

ていますか？～日中戦争80年を考える」で、コーディネーターは植松青児さん、ゲストは大谷猛夫さん（今年3月、中国の遺棄毒ガス兵器の被害地域を訪問）でお送りします。

今年前期放送（2～6月）はここまで、後期は9月からです。引きつづき皆さんの視聴応援・企画持ち込みをよろしく願います。

たたかえば勝てる！うれしいニュース相次ぐ

●「アリさんマークの引越社」裁判で和解 映画「アリ地獄天国（仮）」制作にも弾み



「アリさんマークの引越社」で知られる「引越社関東」の社員・西村有さん（仮名・35）が、配転無効と慰謝料の支払いを求めている訴訟で、東京

地裁にて和解した。会社は「異動が社会的相当性を欠いた」と認めて謝罪。西村さんを元の営業職へ戻し、解決金を支払うこと等に合意した。文字通りの大勝利的和解だ。

2015年1月、営業職だった西村さんは、運転中に事故を起こして弁償金48万円を請求された。疑問を持った西村さんは、プレカリアートユニオンへ加入し、団体交渉を申し入れた。同年6月より、終日古紙の裁断作業を行うだけの「シュレッター係」へ異動となり、賃金は半減。のちに懲戒解雇となり、解雇理由を「罪状」などと記した文書がグループ全社内で掲示された。

和解が決まった際も、西村さんは本社敷地内にある「シュレッター部屋」で作業中だった。内部には監視カメラが3台付いているという。業務終了後のインタビューに「まだ実感はないが、一区切りが付けられたのは大きい。やっとスタートライン」と笑顔で答えた。

この和解は、私が制作中のドキュメンタリー映画「アリ地獄天国（仮）」にとっても、ヤマ場となりました。封入したカンパ要請チラシをご覧いただけると有難いです。（土屋トカチ）

●韓国サンケン労組が勝利解決

「解雇撤回・原職復帰」を実現

2016年9月30日に整理解雇された韓国サンケン労働者34人は、8か月の現地テント闘争、そして日本での遠征闘争をたたかいぬぎ、6月2日全面勝利解決を勝ちとった。18人は「破格の金額」で希望退職の応じ、16人は生産部門への職場復帰を実現した。頭髪を剃って「勝つまで帰らない」と宣言した「遠征闘争団」も勝利を手に、6月3日帰国の途に着いた。「日本の支援者のおかげ。みんなのことは一生忘れない」と何度もリーダーのキムユニョンさんは語っていた。レイバーネットメンバーも通訳・支援者として全面協力した。6月中旬にはは

東京・埼玉で韓国サンケン労組も来日して「報告集会」が予定されている。また7月22日のレイバー映画祭2017では、



ビデオプレスによる新作「トゥージェン！韓国サンケン労組は行く」が披露される予定だ。写真は、6月2日のサンケン本社前と「勝利を祝う」全労協事務所にて。（松原明）

＜ウェブサイト技術講習会を開催＞

技術部・報道部の協力で、5月19日に「技術講習会」を都内で行いました。レイバーネットのウェブは、だれでも情報アップができるシステムになっています。そこでより多くの会員に「ウェブづくり」の技術を身につけてもらおうという企画でした。また「記事の書き方」「写真の撮り方」なども学習しました。さっそく自分で記事アップが出来る会員が、3～4人増えてました。



「岩崎松男さんを偲ぶ会」のご案内

2017年2月28日、岩崎（溝口）松男さんが、自宅のある鹿児島で病気のため逝去されました。岩崎さんは1949年大分県生まれ、国労闘争団のオルグとして長く東京で1047名解雇撤回闘争を闘い、さらにコッタジ応援団の仲間と韓国の労働運動・文化運動との連帯をすすめるなど、多方面で活躍されました。レイバーネットの設立以来の会員でもありました。

- ・6月24日（土）14：00～16：30
スペースたんぼぼ（東京・水道橋）
- ・会費 2000円（ワンドリンク・つまみ付き）
*参加申込みはニュースレター同封のチラシを参照してください。

レイバーネット日本の会員になりませんか

会員になれば、自分でニュースやイベント、お知らせを提供できます。レイバーネット日本は組合や個人が全国にアピールできる絶好の場所です。

年会費 3,000円
(B会員 = 5,000円 通常 + TVサポート)

現会員数 563名
ウェブアクセス 1日 6,000

郵便振替 00150-2-607244 レイバーネット日本
銀行口座 東京都民銀行 小竹向原出張所
普通 55002960

入会申込用アドレス apply@labornet.jp.org
電話 03-3530-8588 ファクス 03-3530-8578